

南アフリカの金利引き上げについて

2014年7月18日

南アフリカ準備銀行(中央銀行)は7月17日(現地時間)政策委員会を開き政策金利であるレポレート¹を0.25%引き上げ、5.75%とすることを決めました。政策変更は2014年1月以来となります。

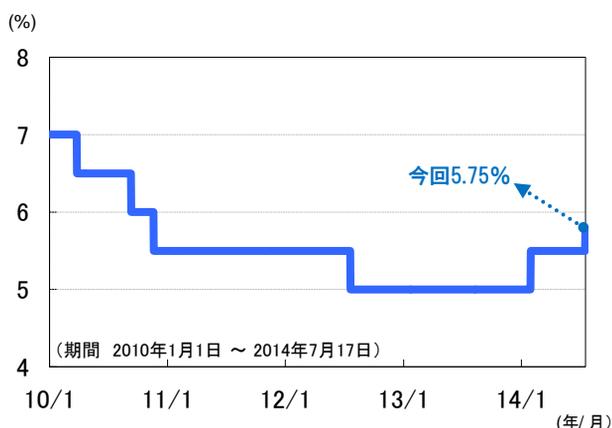
市場関係者の多くは今会合での0.25%~0.5%の政策金利の引き上げを予想していましたが、ウクライナでのマレーシア航空機墜落、イスラエルのガザ地区侵攻報道もあって為替レートは下落しました。

《利上げ決定に至った経緯について》

南アフリカでは今年1月、主要な輸出品である希少金属鉬山の労働者の大規模ストライキ、米国量的緩和縮小開始やアルゼンチンの債務問題、ウクライナ・クリミア問題へのロシアの介入などが警戒され、海外資本の先進国への回帰が活発化したことで自国通貨が急落し、利上げに追い込まれました。しかしその後はストライキに収束の目途は立っていないものの利上げ効果、海外資本の落ち着きなどから、一時は為替レートも水準を切り上げる動きをみせました。

5月中旬以降は再び為替レートが軟調な推移に転じる一方、インフレ率は同国の目標レンジの上限(6%)を超える水準まで上昇してきました。このため同委員会はインフレリスクを重視し今回の決定に至りました。ただ、2014年1~3月期GDP成長率が前期比マイナスとなるなど国内景気が停滞するなか、利上げ幅は景気への配慮もあって最小限の刻み幅とされる0.25%としています。

《南アフリカの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

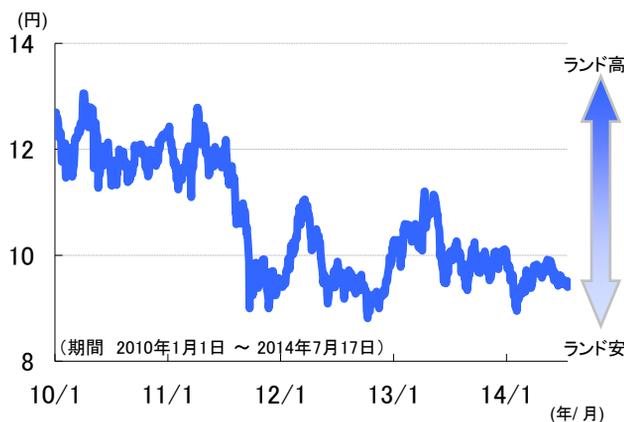
《今後の景気、為替レートについて》

景気については、金融政策委員会では成長率の鈍化、需給ギャップの拡大、深刻な雇用情勢などの懸念が残るとしています。長期化している鉬山ストライキが成長率予測を押し下げ他部門との格差を助長しており、金融政策のみでは改善が困難と述べています。

現在、同委員会は成長率鈍化とインフレとの相反する困難な状況に直面しています。金融政策では景気支援スタンスを採り続けるものの、同国経済が成長経路に戻るには構造改革が必要で包括的な国家的な発展プランが必要と思われると述べています。

為替レートについては金利が相対的に高い水準に維持されており、足元では懸念された経常収支に改善もみられることから、下値は限定的とみられます。

《南アフリカ・ランドの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。